

# タイ向け日本産農林水産物・食品の 輸出増加品目に係る調査

2023年3月

タイ 農林水産物・食品 輸出支援プラットフォーム

---

## 目次

<u>1. はじめに</u>	P 2
<u>2. タイの概況</u>	P 4
<u>3. 品目別の動向分析</u>	P 7
① <u>コメについて</u>	P 8
② <u>インスタントラーメンについて</u>	P 13
③ <u>梨について</u>	P 18
④ <u>酒類（清酒、リキュール・コーディアル、ウイスキー）について</u>	P 22
⑤ <u>牛乳について</u>	P 34
⑥ <u>緑茶について</u>	P 38

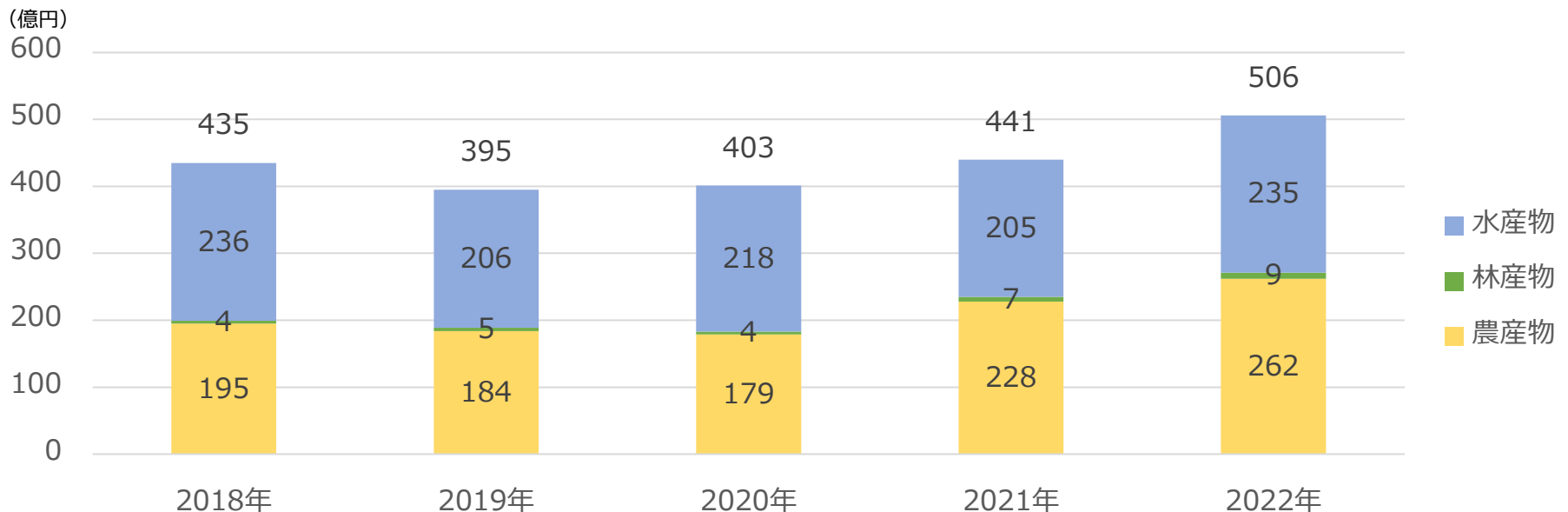
# 1. はじめに

---

# 1. はじめに

- ◆ 日本産農林水産物・食品のタイ向け輸出額は、2022年には2021年から14.9%伸びて総額506億円となり、全世界で第8位となった。
- ◆ 日本産農林水産物・食品の輸出に当たっては、当該品目に係るタイ国内での生産や他国からの輸入状況、日本産の位置付けや競合の存在等について知ることが重要である。
- ◆ このため本レポートでは、タイ向け輸出が増加傾向にある品目のうち8品目（コメ、インスタントラーメン、梨、酒類（清酒、リキュール・コーディアル、ウイスキー）、牛乳、緑茶）を例に取り上げ、各品目の生産・輸入等に関するデータの分析、タイ国内での日本産の位置付け、輸入が増えた理由や背景について調査を行うことで、日本産を含めたタイの食品市場の動向を把握し、更なる輸出拡大に向けた手がかりとする。

## ○2018～2022年の日本産農林水産物・食品のタイ向け輸出額※2、3



※1 農林水産省 2022年農林水産物・食品の輸出額 [https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu\\_kokusai/kikaku/attach/pdf/230203-1.pdf](https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu_kokusai/kikaku/attach/pdf/230203-1.pdf)

※2 農林水産省農林水産物・食品の輸出に関する統計情報 [https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e\\_info/zisseki.html](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_info/zisseki.html)

※3 四捨五入の関係で合計が合わないことがある。

## 2. タイの概況

---

## 2-1 タイの概要、経済指標

- ◆ タイの国土面積は約51万平方キロメートルと日本の約1.4倍。人口は6,617万人（2021年）。
- ◆ タイの一人あたりGDPは7,168米ドル（2020年）と日本の約6分の1だが、首都バンコクを中心に所得が伸びつつあり（バンコクの一人あたりGDPは1万8,718米ドル、日本の約2分の1）、輸入食品を購入できる購買力を持った消費者が増えてきている。

### ○タイの概要（2021年）※1

	タイ
国名	タイ王国 Kingdom of Thailand
面積	51万3,115平方キロメートル（日本の約1.4倍）
人口	6,617万人（2021年、出所：タイ内務省）
首都	バンコク人口567万人（2020年、出所：同上）
言語	タイ語
宗教	仏教94%、イスラム教5%
通貨	バーツ（1バーツ=3.90円、2022年10月1日時点）

※1 出所：JETRO国別情報 タイ<https://www.jetro.go.jp/world/asia/th/>

### ○日本、タイの経済指標[2020年]

	日本	タイ	バンコク
実質GDP成長率	△4.83（%）※2	△6.2（%）※2	△6.7（%）※3
名目GDP	5,048.7（10億ドル）※2	500.19（10億ドル）※2	164.91（10億ドル）※3
一人あたり名目GDP	4万146（ドル）[推計値]※2	7,168（ドル）[現行価格]※2	1万8,718（ドル）[現行価格]※3、4

※2 出所：JETRO各国・地域データ比較 <https://www.jetro.go.jp/world/search/compare.html>

※3 出所：タイ国家統計局 [https://www.nesdc.go.th/nesdb\\_en/main.php?filename=national\\_account](https://www.nesdc.go.th/nesdb_en/main.php?filename=national_account)

※4 2020年の為替レート（1ドル=31.29バーツ、[https://www.jetro.go.jp/world/asia/th/basic\\_01.html](https://www.jetro.go.jp/world/asia/th/basic_01.html)）を元に算出。

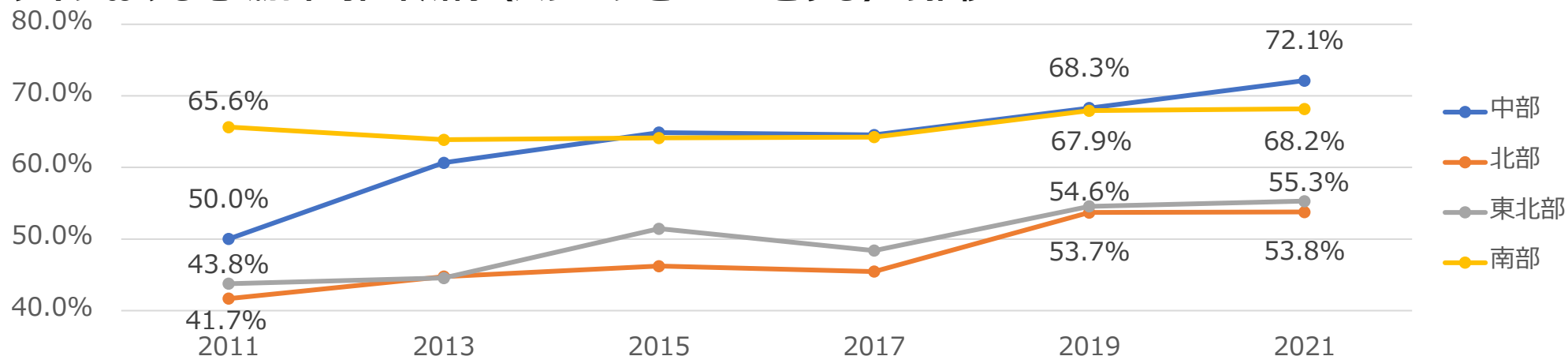
## 2-2 タイ人の所得

- ◆ タイ人の月間所得は、10,001～30,000バーツ/世帯（約3万9,000～11万7,000円/世帯）※1の中間層が過半数（53.2%）。富裕層やアッパーミドルはバンコク首都圏に集中。地方に行くほど中間層や低所得層が増える傾向にあるが、地方にも富裕層は一定数存在。
- ◆ タイにおける地域別の所得格差はここ10年で縮小の傾向。

### ○タイ人の月当たりの所得分布※2

所得層	月当たり所得	全国	バンコク 首都圏	中央部	北部	東北部	南部
低所得層	1万バーツ以下	18.3	4.1	14.7	28.3	26.7	18.2
中間層	10,001～30,000バーツ	53.2	47.0	54.8	53.1	55.7	56
中上流層	30,001～50,000バーツ	17.1	27.3	19.1	12.0	11.0	15.8
上流層	50,001～100,000バーツ	9.1	16.8	9.6	5.6	5.2	8.2
富裕層	100,001バーツ以上	2.3	4.9	1.8	1.1	1.5	1.9
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

### ○タイにおける地域別平均世帯所得（バンコクを100%とする）の推移※3



※1 1バーツ=3.90円、2022年10月1日時点

※2 タイ国家統計局 Household Income and expendituresを基に作成 <http://www.nso.go.th/sites/2014en/Pages/survey/Social/Household/The-2017-Household-Socio-Economic-Survey.aspx>

※3 タイ国家統計局 Average Monthly Income per Household by Region and Province: 2004 - 2021 を基に作成 <http://statbbi.nso.go.th/staticreport/page/sector/en/08.aspx>

## 3. 品目別の動向分析

---



# ① コメについて

---

### 3-①-1 コメ -タイにおける生産・消費の概況-

- ◆ タイは年間約2,600万トンのコメを生産（世界第6位）。※1、2
- ◆ 世界トップ3 に入るコメの輸出大国であり、年間平均約760万トン輸出。 ※2、3
- ◆ タイ東北部などで栽培されるジャスミン米（香り米）は世界的に高い品質と評価。ホムマリ（Thai Hom Mali Rice）という銘柄については、2022年のThe Rice Trader World's Best Riceというコンテストで世界第2位の評価（2020年、2021年は世界第1位）。 ※4
- ◆ タイで生産されるコメはインディカ米が主流であるが、**タイ北部のチェンライ県などでは、ジャポニカ米（短粒種）のうるち米**（以下、特筆しない限りジャポニカ米と呼ぶ）**を栽培**。主力品種はササニシキ系品種のゴーウォーコー1号（ກາກ.1）とあきたこまち系品種のゴーウォーコー2号（ກາກ.2）。 ※5、6 **これらはタイ産ササニシキおよびあきたこまちとしてバンコクでも流通しており、日本産よりも安価。**
- ◆ タイ人の**コメ消費量は2017年からの5年間で3割近く減少**。特に**バンコク都では半分**に。「米食は太る」との考え方が広まり米離れが進んだことや、都会型の生活様式が普及してパン食やファーストフードを消費する文化が浸透してきたことなどが背景にあると分析されている。 ※7

※1 出所：Thai rice Exporters association <http://www.thairiceexporters.or.th/production.htm>

※2 出所：農林水産省2022年8月食料安全保障月報（品目別需給編） [https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j\\_rep/monthly/attach/pdf/r3index-57.pdf](https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/monthly/attach/pdf/r3index-57.pdf)

※3 出所：Thai rice Exporters associationの2018～2021年のデータをもとに平均を算出。 [http://www.thairiceexporters.or.th/List\\_%20of\\_statistic.htm](http://www.thairiceexporters.or.th/List_%20of_statistic.htm)

※4 注釈：The Rice Trader (institute)主催のコンテスト <https://www.trtconferences.com/news/1704-press-release-17-november-2022.html>

※5 出所：Rice Knowledge bank <https://www.ricethailand.go.th/rkb3/title-index.php-file=content.php&id=83.htm>

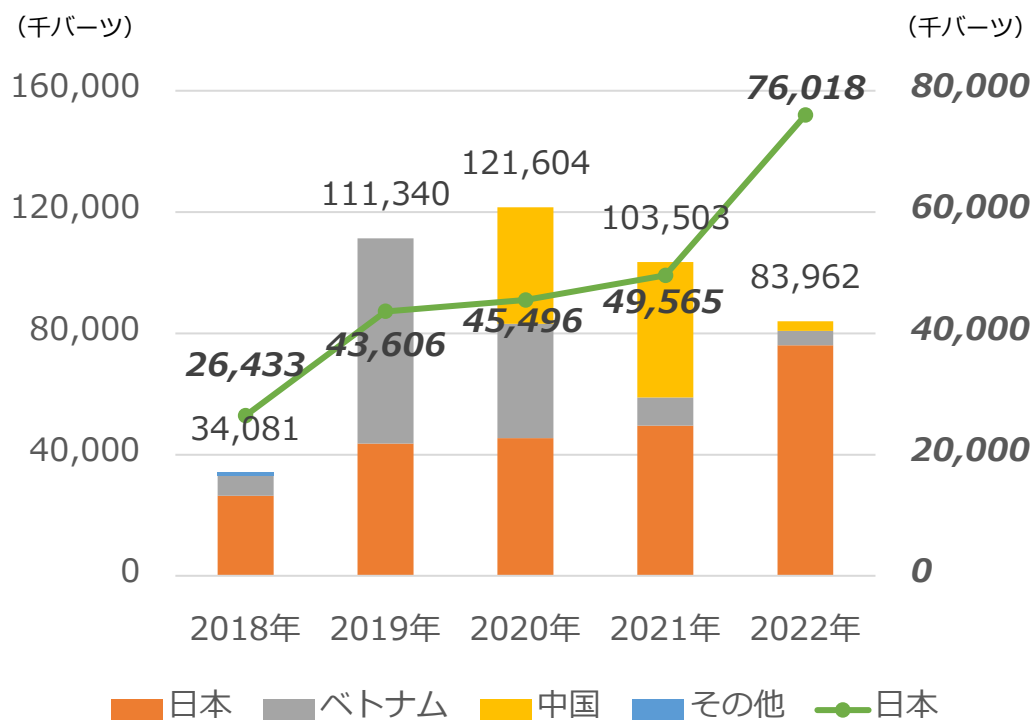
※6 出所：Rice Knowledge bank <https://www.ricethailand.go.th/rkb3/title-index.php-file=content.php&id=84.htm>

※7 出所：タイ・ラット紙（タイ字新聞）2022年11月22日

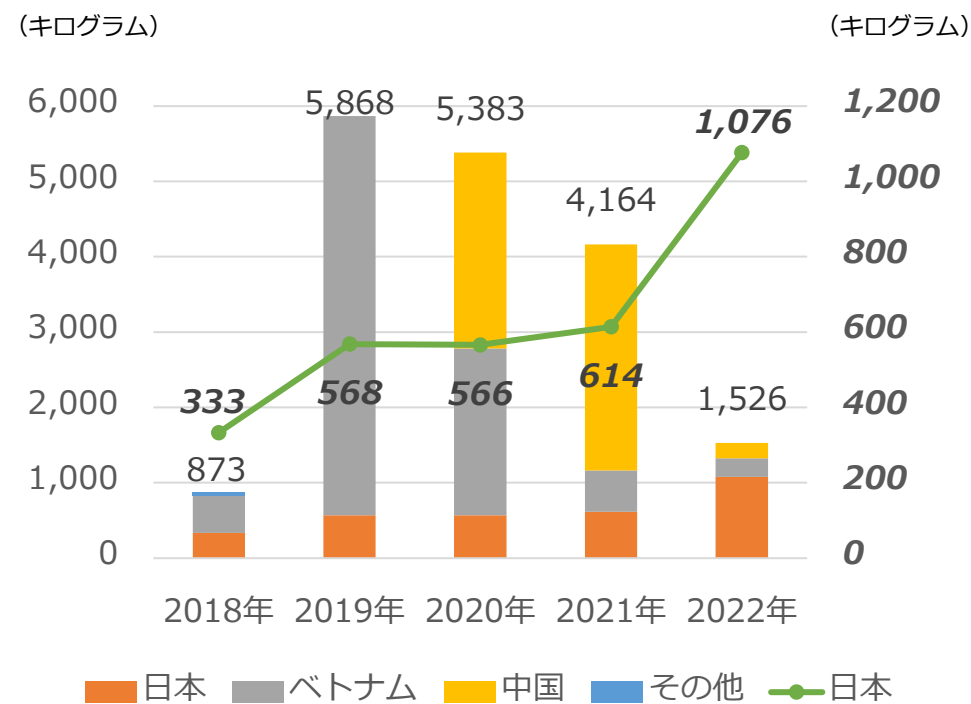
### 3-①-2 コメ（ジャポニカ米（うるち米）） -日本や世界各国からタイへの輸入状況①-

- ◆ ジャポニカ米（うるち米）の世界からタイへの輸入額は2018年から2020年にかけて増加し、2020年をピークに減少。一方、日本からの輸入額は、ここ5年で増加を続けている。
- ◆ 世界からの輸入量は変動が大きく、2019年から2021年はベトナムや中国からの輸入が大部分を占めていたが、2022年は両国からの輸入が減少。一方で日本からの輸入量はここ5年で伸びている。

○2018～2022年の世界および日本からタイへのジャポニカ米の輸入額（C I F 価格）の推移※1、2



○2018～2022年の世界および日本からタイへのジャポニカ米の輸入量の推移 ※1、2

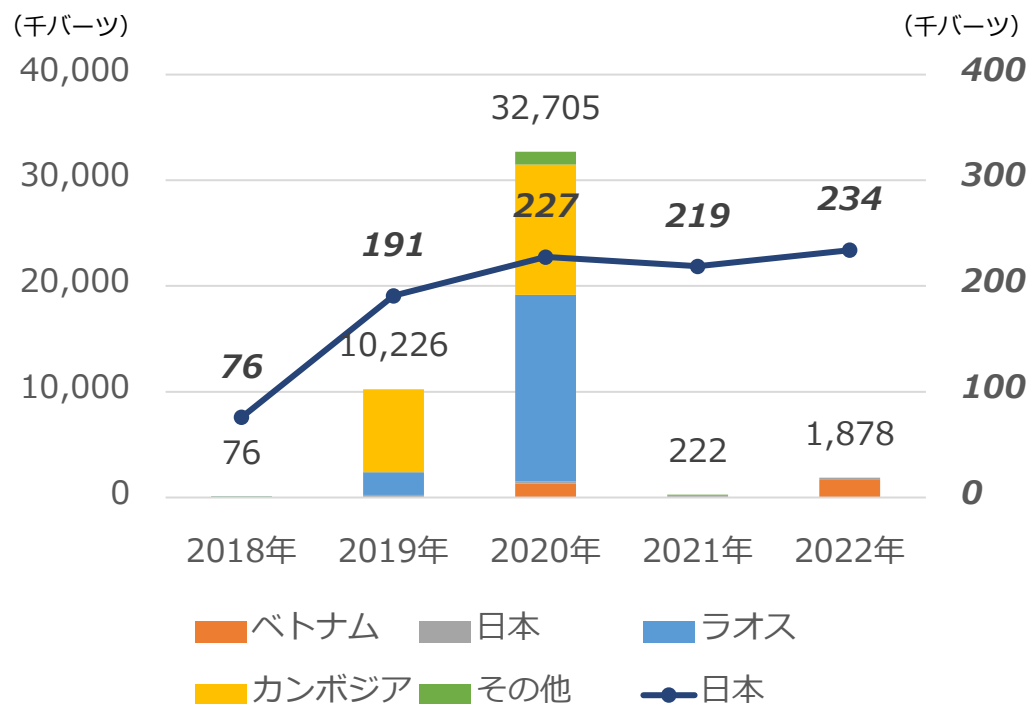


※1 タイ税関 <https://www.customs.go.th/>  
 ※2 ジャポニカ米のHSコードは10063099015

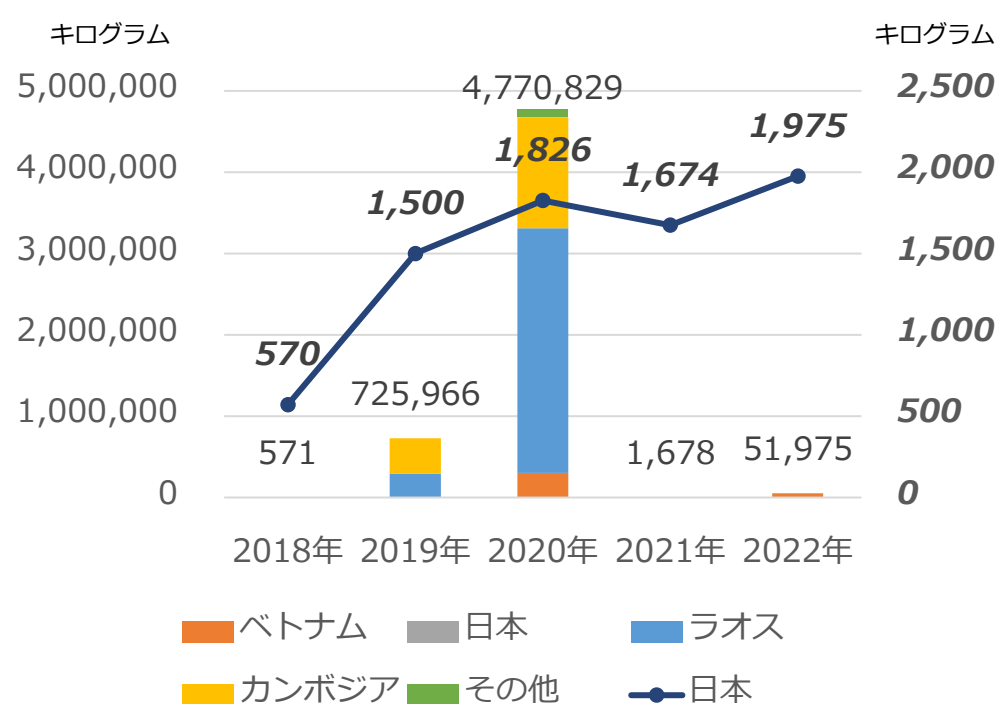
### 3-①-3 コメ（もち米） -日本や世界各国からタイへの輸入状況-

- ◆ もち米の世界からの輸入額は変動が大きく、2019年、2020年はカンボジアやラオスからの輸入が急増、その後激減。日本からの輸入額はごく少額ではあるものの、徐々に増加。
- ◆ 輸入量についても、輸入額と同様の傾向。

○2018～2022年の世界および日本からタイへのもち米の輸入額（CIF価格）の推移※1、2



○2018～2022年の世界および日本からタイへのもち米の輸入量の推移 ※1、2



※1 タイ税関 <https://www.customs.go.th/>  
 ※2 もち米のHSコードは、10063030

### 3-①-4 コメ -ヒアリング概要（日本産の輸入が伸びている理由等） -

コメなどの食品を日本から輸入する事業者からのヒアリング概要（2023年3月実施）

- ◆ 日本産のジャポニカ米の輸入が伸びている理由については、**タイの日本食レストラン向けの販売が堅調であることが原因ではないか。**
- ◆ 為替の影響等を受け、一時期よりは単価が低下している。
- ◆ タイ産ジャポニカ米がタイで生産されている中でも日本産ジャポニカ米が流通している点については、タイ産は日本産と比較して通年で品質が安定しない点や、食味の劣化が早い点など、**生産方法の違いによると思われる品質の差**がある。また、その差が日本産の輸入が堅調である理由ではないか。
- ◆ 日本産ジャポニカ米は、バンコクのみならず、東部チョンブリなどの地方でも流通している。一方で、日本食レストランは地方で数を伸ばしているが、日本食レストランが伸びているほど日本産ジャポニカ米の消費は地方では伸びていない。地方の日本食レストランの中でも、食の品質より**雰囲気や安価であることを重視しているような店**については、**必ずしも日本産を必要としていないのではないか。**
- ◆ 日本産もち米は和菓子の原料として利用されている。**タイ産もち米は品質の面で適しておらず、日本産品質が求められているためではないか。**

## ②インスタントラーメンについて

---

### 3-②-1 インスタントラーメン -タイにおける生産・消費の概況-

- ◆ インスタントラーメンのタイ国内の総需要量は2021年時点で世界第9位の年間36.3億食。<sup>※1</sup> 仮に総需要の全商品が、1袋65グラムのタイで平均的な袋麺（7パーツ）と仮定すれば、単純計算で約24万トンが国内総需要量と推計。輸入量が2021年に約7,300トンであることを踏まえると、総需要のわずかな部分（約3%と推計）が輸入品と推計される。
- ◆ タイでは**インスタントラーメンの販売の約85.6%が袋麺**（その他はカップ麺）。<sup>※2</sup>
- ◆ タイ国内全体の売上額がほぼ一定であることとは対照的に、**他国産（輸入品）のインスタントラーメンの輸入額は順調に増加**。
- ◆ 2023年1月30日現在、タイで製造されるインスタントラーメンは、タイ国内の法律<sup>※3</sup>により価格統制の対象となり、価格の値上げに政府機関の承認を必要とする品目だ。<sup>※4</sup> 価格統制とは、生活必需品等を対象に、政府機関が価格や商品情報詳細等の報告を求めるもので、価格値上げの承認のほか、供給量、コスト、輸入計画、在庫、物流マネジメント等について報告を求める場合もある。インスタントラーメンはタイ国内の消費需要も高く、生活を支える重要なものとして扱われている。なお、輸入されるインスタントラーメンは価格統制の対象外。

#### ○2018年を100としたインスタントラーメンのタイ国内売上額および輸入額の推移

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
タイ国内売上額	100 <sup>※5</sup>	106 <sup>※5</sup>	101 <sup>※6</sup>	98 <sup>※6</sup>	106 <sup>※7</sup>
タイへの輸入額	100	105	134	156	185

※1 世界ラーメン協会ウェブサイト 総需要一覧表

<https://instantnoodles.org/noodles/demand/table/>

※2 Marketeer <https://marketeeronline.co/archives/124577>

※3 正式名称は「The Price of Goods and Services Act, B.E.2542 (1999)」

※4 農林水産省 令和3年度輸出先国・地域における現地の体制強化委託事業第3回タイトレントレポー卜第14回資料<https://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokkyo/attach/pdf/platform-144.pdf>

※5 Marketeer <https://marketeeronline.co/archives/124577>

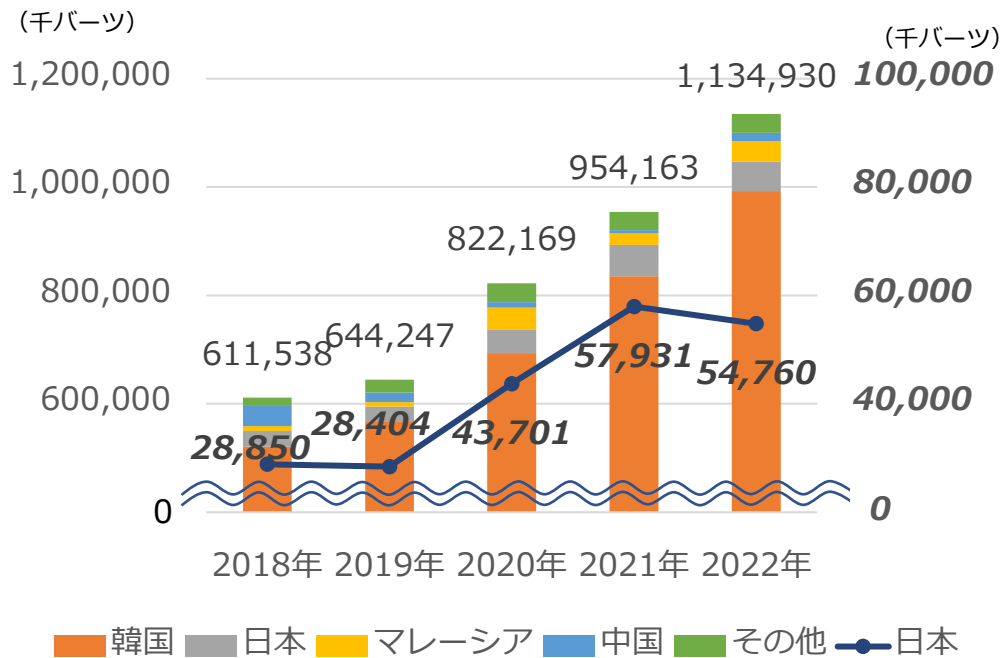
※6 Marketeer <https://marketeeronline.co/archives/261758>

※7 プラチャーチャートトラギット <https://www.prachachat.net/marketing/news-1212525#:~:text=%E2%80%9C%E0%B9%84%E0%B8%97%E0%B8%A2%E0%B9%80%E0%B8%9E%E0%B8%A3%E0%B8%8B%E0%B8%B4%E0%B9%80%E0%B8%94%E0%B8%99,%E0%B8%A1%E0%B8%B2%E0%B8%A1%E0%B9%88%E0%B8%B2%E0%B8%A2%E0%B8%B1%E0%B8%87%E0%B8%84%E0%B8>

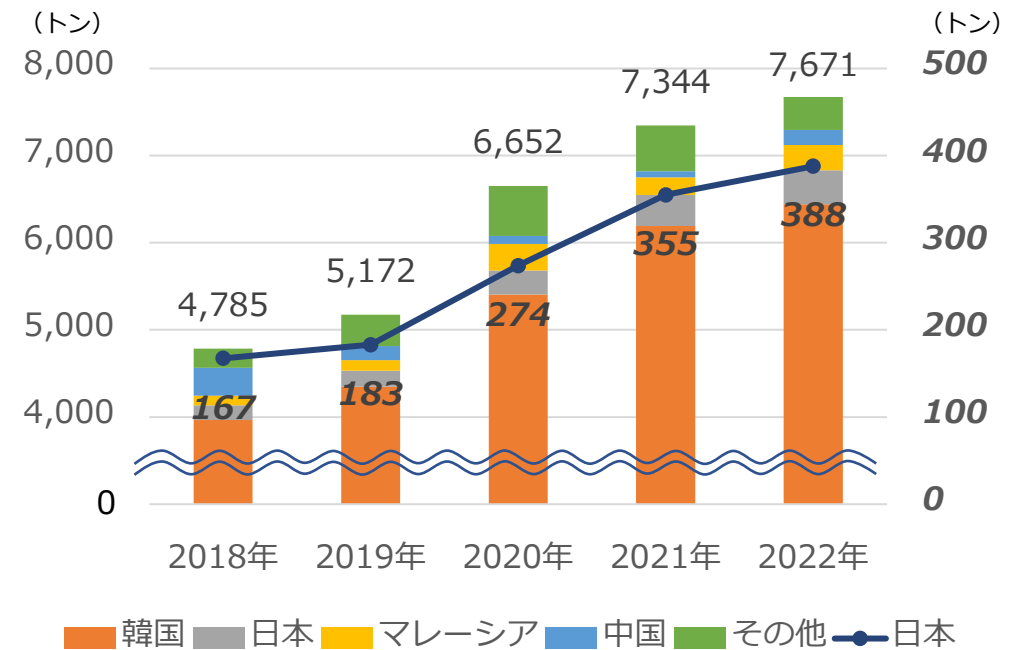
### 3-②-2 インスタントラーメン -日本や世界各国からタイへの輸入状況-

- ◆ 世界からのタイへの輸入額は2018年以降毎年増加し、2022年には2018年比で約1.9倍に増加。最大のシェアは韓国で約85%。日本からの輸入額は2021年に最高値を記録したが、2022年は若干減少。2022年には2018年比で約1.9倍。
- ◆ 世界からの輸入量も2018年以降毎年順調に増加。日本からの輸入量も2018年から継続的に伸び、2022年には2018年比で約2.3倍に増加。

○2018～2022年の世界および日本からのタイへの即席麺の輸入額（CIF価格）の推移 ※1、2



○2018～2022年の世界および日本からタイへの即席麺の輸入量の推移 ※1、2



※1 タイ税関 <https://www.customs.go.th/>  
 ※2 即席麺のHSコードは19023040



### 3-②-3 インスタントラーメン -タイにおける他国産品の概況②-

#### 【タイにおける日本産の特徴】

- ◆ 日本産は**比較的高価な1食約80バーツの商品が多い**。近年は**約40バーツの商品も増加**。タイ産は袋麺の多いのに対し、**日本産は個別包装ではなく袋麺5食分をまとめて1袋に入れたものや、カップ麺が比較的多い**。
- ◆ 他国産が豚や鶏ベースのスープにフレーバーを加えた味付けであるのに対して、日本産は日本の食材を活かした醤油、味噌、塩、とんこつなど**バラエティ豊かな味の種類があるのに加え、液体スープや生麺風など味以外でも特徴を持つ**。
- ◆ 日本産は主に**都心や地方中心部のスーパーマーケット**で販売。コンビニや郊外のスーパーマーケットではあまり見かけない。

#### 【タイにおける韓国産の特徴】

- ◆ 韓国産はタイの**一般層1回分の食費に相当する1袋45～55バーツ**に設定され、幅広い層が購入しやすい。商品形態は袋麺が多い。
- ◆ デザイン面では、一目で韓国産だと分かるようハングル文字が全面に押し出されている、親しみやすいデザインのキャラクターが描かれるなど、**若年層を主な消費者としていることが伺える**。タイでの韓国ドラマ人気、食品メーカーによる韓国人気アイドルを用いた広告戦略が韓国産人気の裏に存在。
- ◆ 韓国産は、タイ全土で地方を含め約1万5千店舗ある※と言われる**コンビニで1袋ごとに販売**されているほか、**スーパーマーケットでも大量に販売**。

※ 出所：Thansettakij（タイ語）<https://thansettakij.com/economics/531639>

### 3-②-4 インスタントラーメン-ヒアリング概要（日本産の輸入が伸びている理由等） -

日系、タイ系の輸入事業者2社からのヒアリング概要（2023年3月実施）

- ◆ 日本産のインスタントラーメンの輸入量が年々増加している理由について、日本産には根強い人気があり、**味の豊かさやおいしさを含む品質の高さ**があることが挙げられるのではないかと。（A社）
- ◆ 日本産は**低価格帯の輸入が伸びている**と感じている。（A社）
- ◆ 購買層としては、タイ人は多くなく、多くは**日系の単身赴任者や家族赴任者**ではないかと。（A社）
- ◆ 購買層としてはタイ人が多い。豚骨系のオリジナルの味が最も人気である。タイ人は塩加減やにおい加減を気にしており、売れているものはちょうどよい加減である。（B社）
- ◆ 日本産のバンコク都以外の地方での販売可能性については、日本では品質の維持や安全性を重視する影響か、賞味期限が6ヶ月程度と他国産より比較的短く、船便で日本から輸出してタイに到着した時点で賞味期限の1/3にあたる2ヶ月程度が経過しており、更に**バンコク都から地方まで輸送して店頭に並ぶ頃には陳列可能な時間が短くなっていることから、バンコク都近郊以外で棚に置いて販売するのは難しい**面がある。（A社）
- ◆ オンライン販売を行っており、バンコク都だけでなく地方向けにも販売している。（B社）
- ◆ （韓国産は1袋単位の販売形態を取っており、コンビニの棚に陳列されやすく、収入が低い若者でも少数から気軽に購入できる一方で、日本産は5袋パックで販売されバラ売り販売は少なく、若者では購入をためらう価格で販売せざるを得ない状況である点について）日本産の個別包装単位のバラ売りは、数量や賞味期限などの在庫管理等が煩雑になり労力に見合わないと感じている。（A社）

### ③ 梨について

---

### 3-③-1 梨 -タイにおける生産・消費の概況-

- ◆ タイ最大の青果市場であるタイ市場の取引記録には、タイ産の和梨に関する記録無し※<sup>1</sup>。
- ◆ 和梨の多くは輸入品と推察。
- ◆ 輸入品は中国産が圧倒的に多いが日本産や韓国産も見られ、日本産の大玉品種や韓国産は、贈答用に引き合いがある。
- ◆ 中国産は85～115バーツ/個※<sup>2</sup>であるのに対して、日本産が200バーツ/個※<sup>2</sup>や400バーツ/個、韓国産は260バーツ/個※<sup>2</sup>など比較的高価。

#### ○日本産



#### ○韓国産



#### ○中国産



出典:※2参照

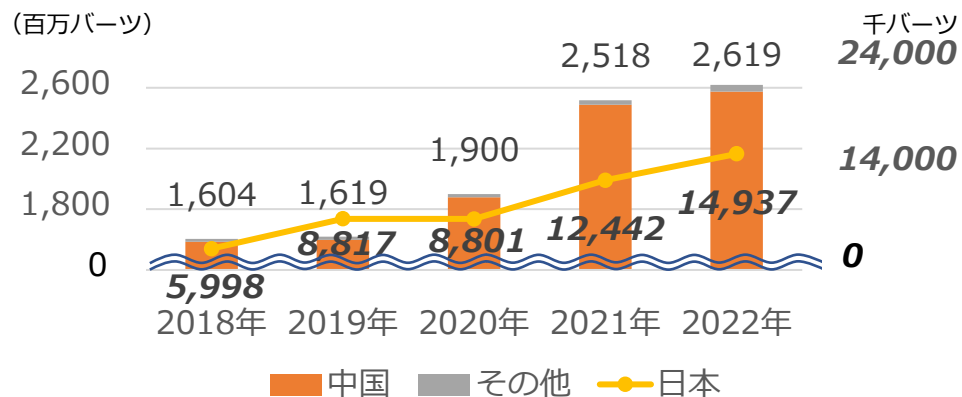
※1 タイ市場取引記録上<https://www.talaadthai.com/product-search/result?q=%E0%B8%AA%E0%B8%B2%E0%B8%A5%E0%B8%B5%E0%B9%88>

※2 タイ輸出支援プラットフォーム「タイにおける他国産輸入青果物の輸入・販売・評価等調査」[https://www.jetro.go.jp/ext\\_images/agriportal/platform/th/pf\\_bgk\\_2301-2.pdf](https://www.jetro.go.jp/ext_images/agriportal/platform/th/pf_bgk_2301-2.pdf)

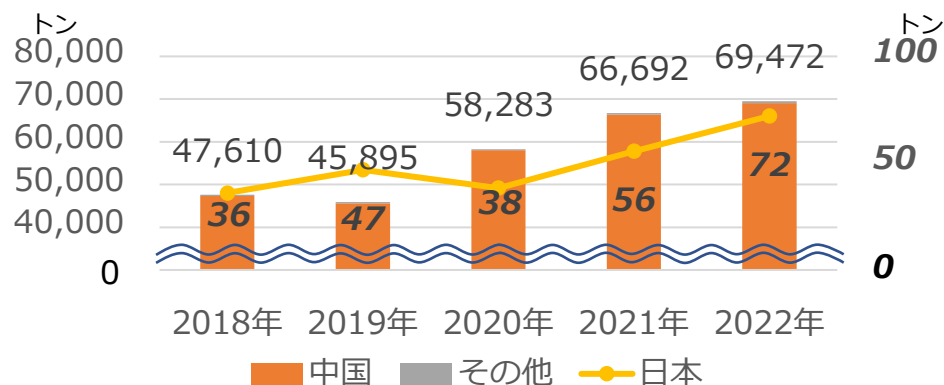
### 3-③-2 梨 -日本や世界各国からタイへの輸入状況-

- ◆ 世界からタイへの輸入額は増加しており、2022年は2018年比約1.6倍。輸入額のうち99%が中国からの輸入。中国産以外では、韓国産・日本産が続く。日本からの輸入額も増加しており、2022年は2018年比約2.5倍。
- ◆ 世界からの輸入量は2022年は2018年の約1.5倍。日本からの輸入量も増加しており、2022年は2018年比約2倍。

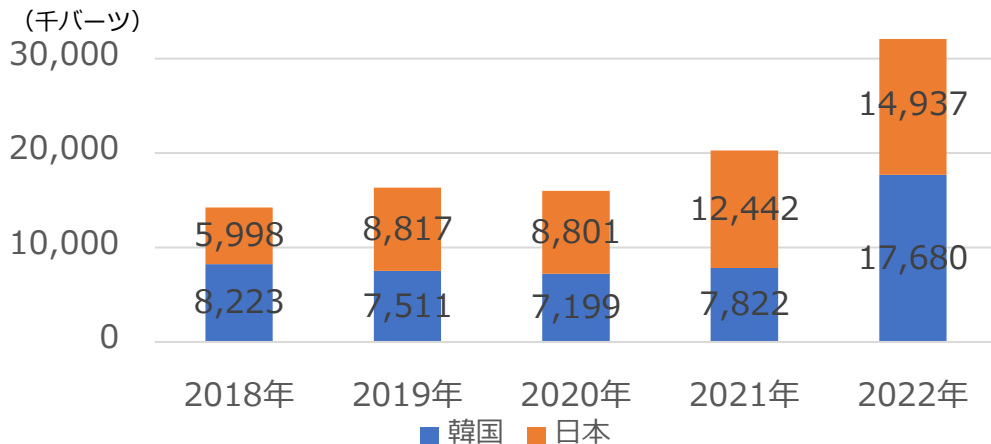
○2018～2022年の世界および日本からタイへの梨の輸入額（CIF価格）の推移



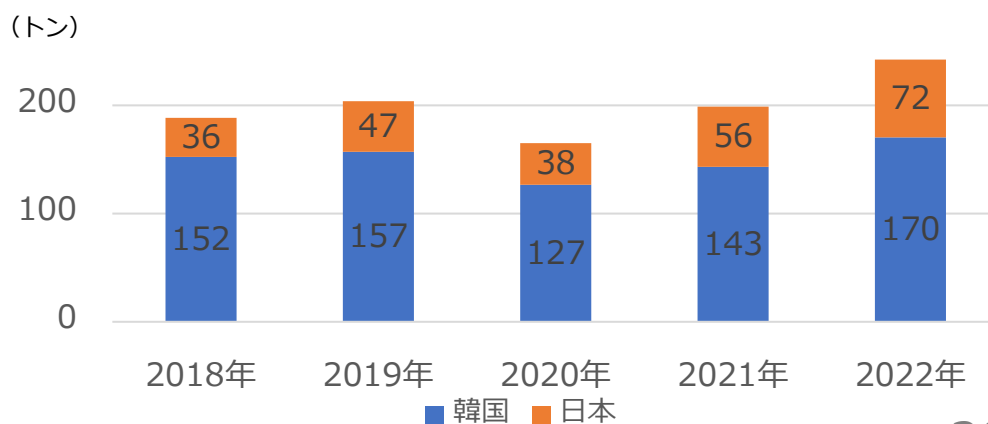
○2018～2022年の世界及び日本からタイへの梨の輸入量の推移



○2018～2022年の日本および韓国からタイへの梨の輸入額（CIF価格）の推移 ※1、2



○2018～2022年の日本および韓国からタイへの梨の輸入量の推移 ※1、2



※1 タイ税関 <https://www.customs.go.th/>

※2 梨のHSコードは08083000

### 3-③-3 梨 -ヒアリング概要（日本産の輸入が伸びている理由等） -

日系、タイ系の輸入事業者からのヒアリング概要（2023年3月実施）

- ◆ 日本産がこれまで輸出を伸ばしている理由については、**近年、贈答用としてタイ人から堅調な需要**があるためではないか。
- ◆ 日本と韓国産はともに贈答用としての需要がある。日本産と韓国産は味が拮抗していると感じているが、**日本産は贈答用として大玉品種の需要が比較的大きく、贈答用にふさわしい丸く傷のないきれいな外見や、安過ぎない価格が強み**である。韓国産は日本産より安価なものも多く、その点が強みである。贈答用として高価であることもステータスとなっており、高価な日本産を選択するか、安価な韓国産を選択するかは消費者ごとの判断。
- ◆ 梨は近年かなり日本からの輸入が増加したが、それに応じた需要の拡大の実感はあまりなく、今後も伸ばしていけるかは判断が難しい。

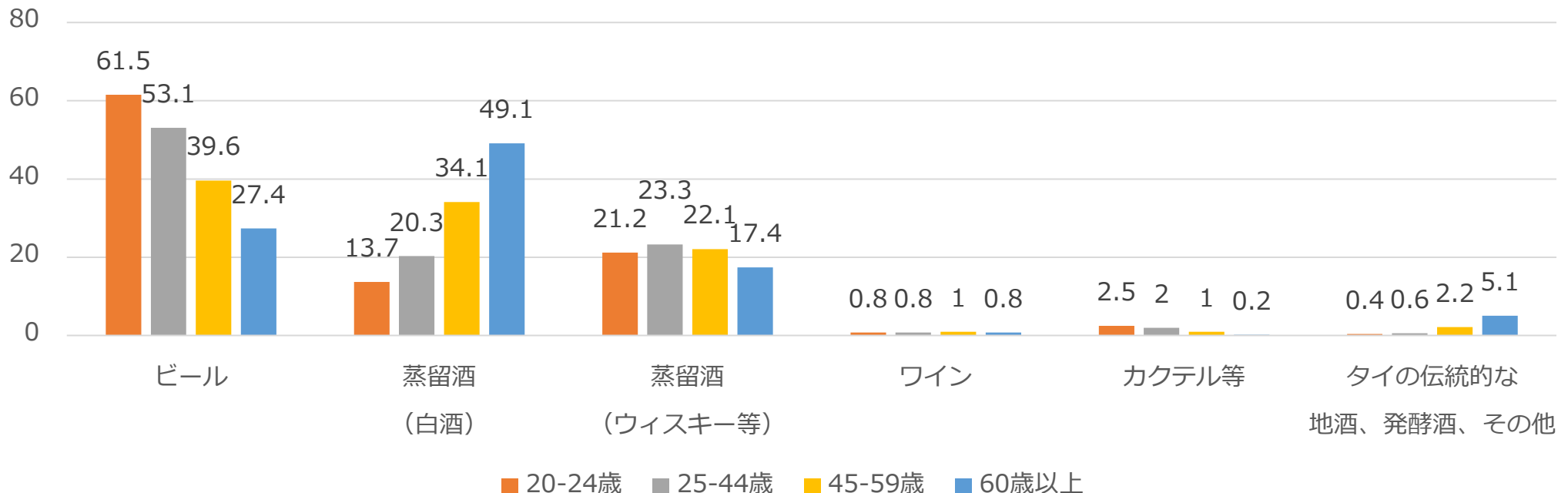
## ④ 酒類（清酒、リキュール・コーディアル、 ウイスキー）について

---

### 3-④-1 酒類 -タイにおける嗜好の概況-

- ◆ **タイで最も好まれている酒類はビール。**年齢層が上がるにつれビールから蒸留酒（白酒※1）を好む割合が高くなる。蒸留酒（ウイスキー等※2）はどの世代でも比較的安定して好まれている。
- ◆ ワインやカクテル等を上位にあげる人はあまりおらず、ワインについては1%以下、カクテル等については2.6%以下となっている。グラフ中のその他に含まれる清酒やリキュール・コーディアルについては、**ビールやウイスキー等に比べるとマイナーな立場**であることがわかる。

(%) ○ 1年を通じて習慣的に飲酒をするタイ人の酒の好み※3、4



※1：白酒とは、「白色酒」として分類されるものであり、ラオカーオなどの色、香り、味付けを行わない蒸留酒が含まれる。

※2：ウイスキー等とは、「琥珀色酒」として分類されるものであり、これらにはウイスキーやブランデー、着色したラム酒など茶色の蒸留酒が含まれる。

※3：タイ保健省病理管理局を元に作成 <https://ddc.moph.go.th/uploads/files/1438820200823062406.pdf>

※4：調査方法：2017年タイ全土の46,300世帯に対して、調査員が自宅を訪れヒアリング調査を実施。39,640世帯から回答があり、世帯の家長や家族が3つを上限に複数回答。



### 3-④-2 酒類 -タイにおける規制の概況-

- ◆ タイでは、
  - 病院などの医療機関、教育機関での販売などの販売場所についての規制
  - 販売プロモーションのための値下げや自動販売機での販売など販売方法についての規制
  - 販売時間や販売日の規制
  - アルコール飲料の摂取を促進する広告についての規制など、**アルコールに関する各種規制**が存在。
- ◆ タイでは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う**飲食店関連の規制が実施**された。例えば、バンコクでは2020年3月には飲食店はデリバリー・テイクアウト営業のみが可能（店内飲食禁止）となる規制が開始されたほか、同年4月にはアルコール類の販売を禁止とする規制が開始となった。これらの規制は新型コロナウイルス感染症の状況に応じて緩和と強化が行われ、2022年6月にほぼ全ての規制が解除された。これらの規制により、酒類の輸入にも一定の影響があったと考えられる。
- ◆ また、2020年12月7日からは、**電子的手段または電子的形態、すなわちオンラインによるアルコール飲料販売が禁止**。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために政府が実施した商業施設の一時閉鎖、外出自粛措置により、オンラインによるアルコール飲料の広告と販売が増加したとされ、購入者の年齢や販売時間を確認することが難しくなったことが背景。レストランや小売店などでの電子的手段による決済（クレジットカードやスマートフォンアプリでの決済など）は規制の対象外。

### 3-④-3 清酒 -タイにおける生産・消費の概況-

- ◆ タイでは、古来より米由来の伝統的なお酒としてサートー※1、ラオカーオ※2、ラーオウ※3等、様々な酒が生産、消費されてきた。しかし、古臭いというイメージにより、**これらの酒は近年はあまり消費がなされなくなってきている。**
- ◆ 清酒はタイにおいて「サケ」と呼ばれ**一定の知名度**を得ている。日本産の清酒は、他の種類と同様、日本食レストランや小売店で購入が可能。
- ◆ 近年では、日系企業による清酒の普及を図る活動（清酒に関する動画をタイ語でSNSで発信）、バンコクでの日本産清酒の試飲会など、各銘柄の知名度向上に向けた取り組みがみられる。

※1 米原料の微発泡酒

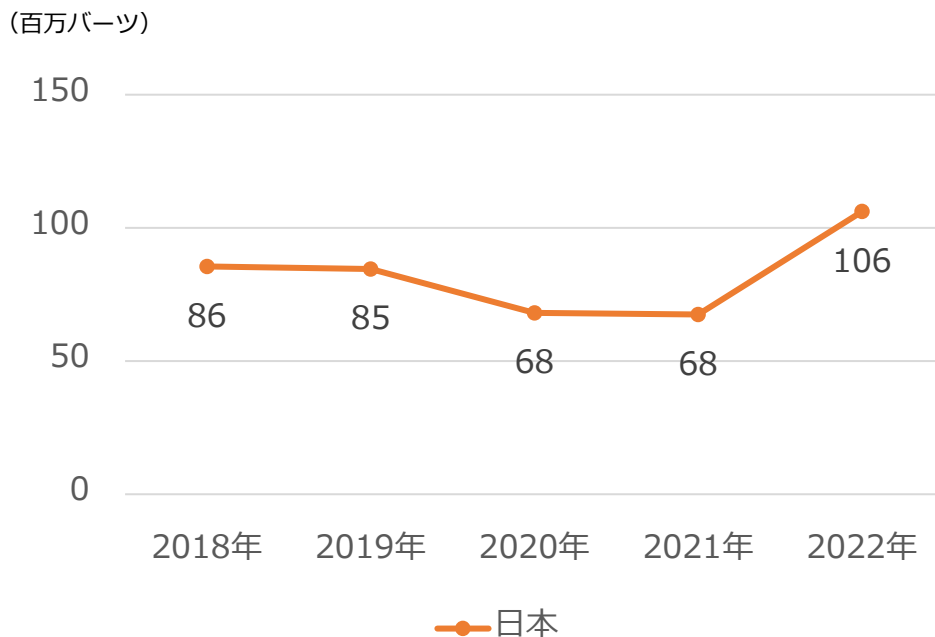
※2 米原料の蒸留酒

※3 アルコール発酵させた米を好みの飲料で希釈する酒

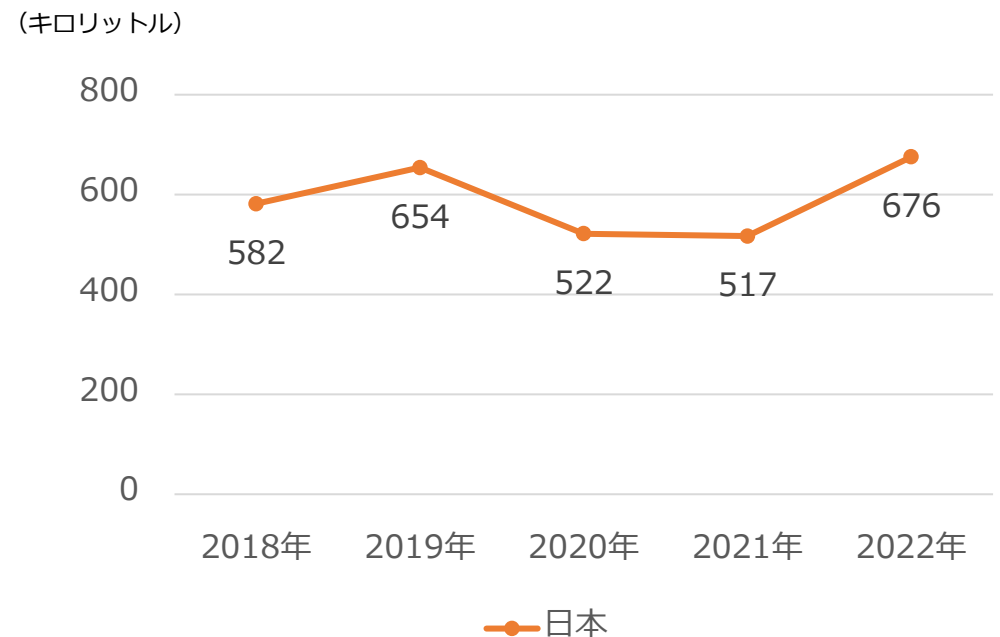
### 3-④-4 清酒 -日本や世界各国からタイへの輸入状況-

- ◆ 日本からタイへの輸入額は、2020年から2021年にかけて落ち込んだが、2022年には回復し、過去5年間で最高額。
- ◆ 日本からタイの輸入量は、2020年と2021年は低下したものの、2022年は過去5年間で最大量。輸入額ほどの伸び率にはなっていない。

○2018～2022年の日本からタイへの  
清酒の輸入額（C I F 価格）の推移※1、2



○2018～2022年の日本からタイへの  
清酒の輸入量の推移※1、2



※1 タイ税関 <https://www.customs.go.th/>

※2清酒のHSコードは22060020

### 3-④-5 清酒 -ヒアリング概要（日本産の輸入が伸びている理由等） -

日系の輸入事業者2社からのヒアリング概要（2023年3月実施）

- ◆ 日本食レストラン向けの取り扱いが多く、**近年では比較的に安価なものが伸びている**と感じている。主力製品は1,000 THB以下の中程度の価格層である。（A社）
- ◆ 近年では日本食料理店の多いバンコク都に加えて、**地方にあるタイ人経営の日本食レストラン向け**が伸びている。（A社）
- ◆ 2022年には統計上輸入額と量が伸びているが、現状はコロナ禍からの回復の途上との印象。コロナで深いダメージを負っており、**すごく伸びているとは感じていない**。（B社）

### 3-④-6 リキュール・コーディアル -タイにおける生産・消費の概況-

- ◆ リキュール・コーディアルとは、砂糖、はちみつその他の天然甘味料及び天然抽出物やエキスを加えたアルコール飲料。例えば、梅酒等果実酒、チューハイなどが含まれる。 ※1
- ◆ 2020年の調査によるとタイで消費されるアルコールのうち、リキュール・コーディアルが含まれる「その他」類は全体の1.1%（数量ベース）。 ※2
- ◆ **日本産梅酒は、大都市の大規模なスーパーマーケット等で販売**されており、日本産と中国産の梅酒が併売されることも。飲食店では日本食レストランが中心だが、バンコク都では梅酒を売りとするバーもオープンするなど、タイでも浸透していることがうかがえる。
- ◆ **チューハイは、スーパーマーケットのほかコンビニでも販売**されており、日本産のほか、他国の日系飲料メーカーが製造しタイに輸入するもの、日系企業やタイ企業が現地生産するものが、同じ棚でどれも1缶40バーツほどで販売されている。

※1 日本の関税率表解説による定義は、「エチルアルコールや蒸留したアルコールを、果実、花や植物のその他の部分、抽出物、エキス、精油又はジュース（濃縮してあるかないかを問わない。）のうち一つ若しくは二つ以上とともに混合又は蒸留して得られるアルコール飲料。」

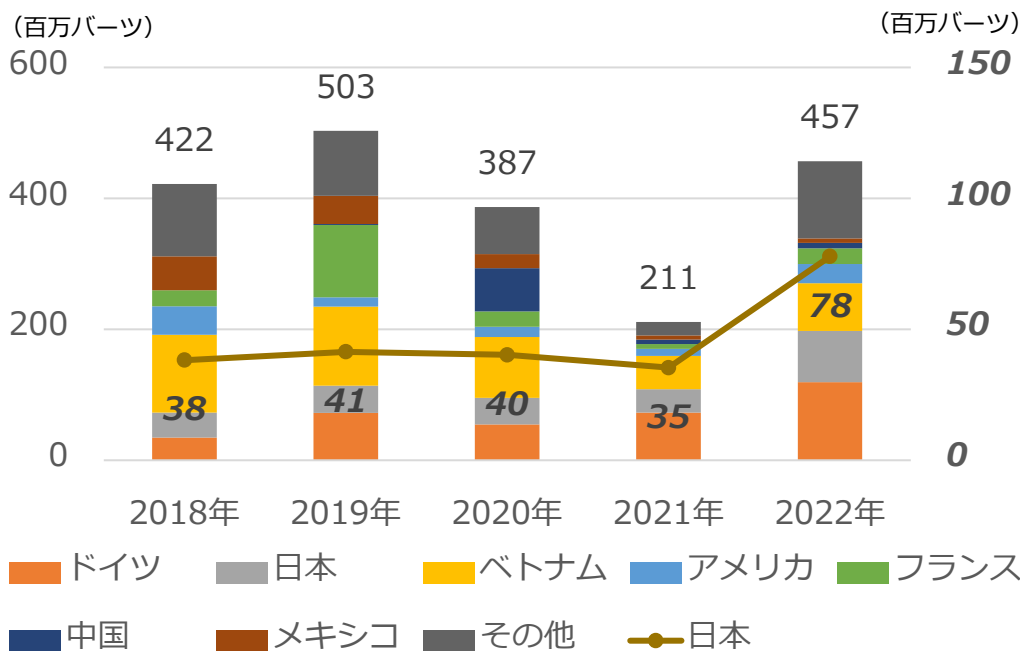
出所：税関 関税率表解説 <https://www.customs.go.jp/tariff/kaisetu/data/22r.pdf>

※2 アユタヤ銀行 ビジネス/業界の見通し2022-2024:飲料業界（タイ語） <https://www.krungsri.com/th/research/industry/industry-outlook/Food-Beverage/Beverage/IO/io-beverage-2022>

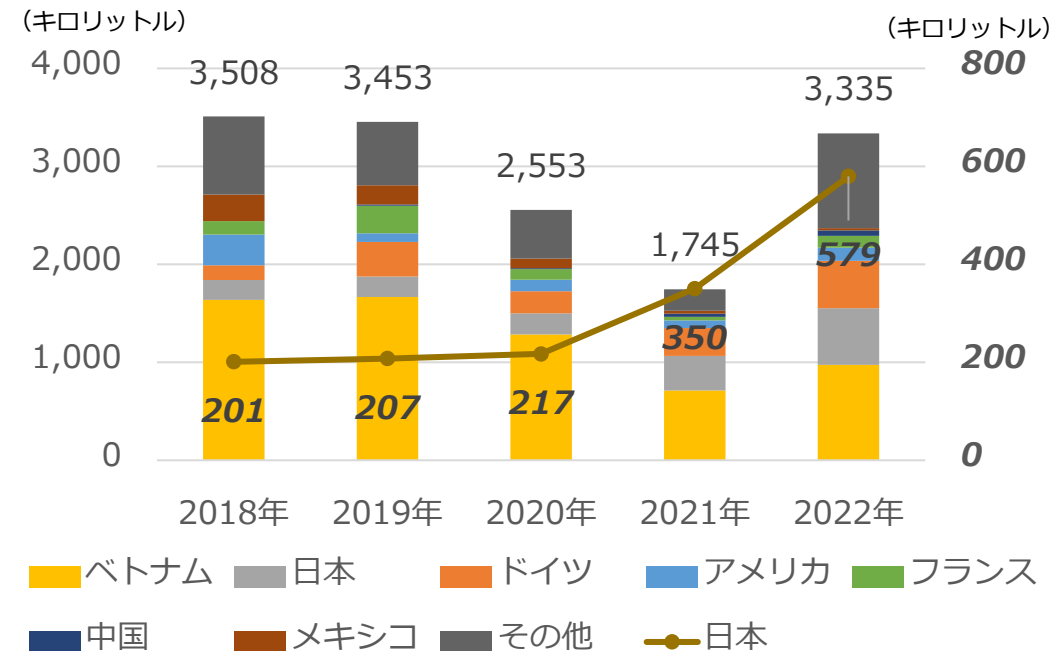
### 3-④-7 リキュール・コーディアル -日本や世界各国からタイへの輸入状況-

- ◆ 世界からタイへの輸入額は2020年、2021年に落ち込んだが、2022年には2018年の額を超えるまで回復。2022年の金額別シェアでは、第1位がドイツ、第2位が日本。日本からの輸入額は2022年に大きく伸び、過去5年間で最高額を記録。
- ◆ 世界からの輸入量も2020年、2021年と落ち込んだ。2022年は輸入額が回復するも、2018年、2019年の量には至らず。2022年の数量のシェア第1位はベトナムであり、第2位が日本。日本からの輸入量は増加し続け、2022年は過去5年間で最大量を記録。

○2018～2022年の世界および日本からタイへのリキュール・コーディアルの輸入額（CIF価格）の推移※1、2



○2018～2022年の世界および日本からタイへのリキュール・コーディアルの輸入量の推移※1、2



※1 タイ税関 <https://www.customs.go.th/>

※2 リキュール・コーディアルのHSコードは220870

### 3-④-8 リキュール・コーディアル-ヒアリング概要（日本産の輸入が伸びている理由等） -

日系の輸入事業者2社からのヒアリング概要（2023年3月実施）

- ◆ 品目として少し伸びており、**今後も伸びる可能性**があると感じる。
- ◆ 伸びている理由は、日本酒や焼酎などと違い、甘く飲みやすいこと、また**タイ人の、特に女性の口にあう**ことが一番の要因ではないか。
- ◆ このカテゴリーの中でも、**梅酒は人気**があり、**日本食レストラン向けの数量が増加**してきている。
- ◆ 梅酒はソーダ割などの飲み方が選ばれている模様。
- ◆ 梅酒をはじめとしたリキュール・コーディアル類は、日本食レストランで女性の選択肢となり、日本食レストランにとってもプラスであると思われる。

### 3-④-9 ウィスキー -タイにおける生産・消費の概況

- ◆ タイでは蒸留酒が、2022年現在で年間約2億1,000万リットル生産され、約1億5,000万リットルが国内流通している。（これには、ウィスキーのほか、ラム、ウォッカ、ラオカーオ等が含まれるが、タイウィスキー（後述）は含まれない。）※1 2022年のウィスキーの輸入量は1,100万リットル、ラム等は40万リットル、ウォッカは120万リットルであり、輸入品のシェアはそれほど大きくはない。※2
- ◆ タイでは、通常のウィスキーの他、「タイウィスキー」と呼ばれるタイ産の酒類が販売されているが、厳密には糖蜜または米を原料としウィスキーの香りづけ等をおこなったものであり、通常のウィスキーとは異なる。※3
- ◆ タイ産のウィスキーの小売価格は代表的なもので700ml 280バーツ。輸入品は価格帯の幅が広く、店頭価格で720ml 1,000バーツのものから、10,000バーツを超えるものも。
- ◆ 近年は、日本産ウィスキーに特化した飲食店が新規出店するなど、日本産ウィスキーに触れる機会も増えている。

※1 出所：TSIC <https://i.index.oie.go.th/industrialStatistics1.aspx>

※2 タイ税関、ウィスキーのHSコードは220830、ラム等は220840、<https://www.customs.go.th/>

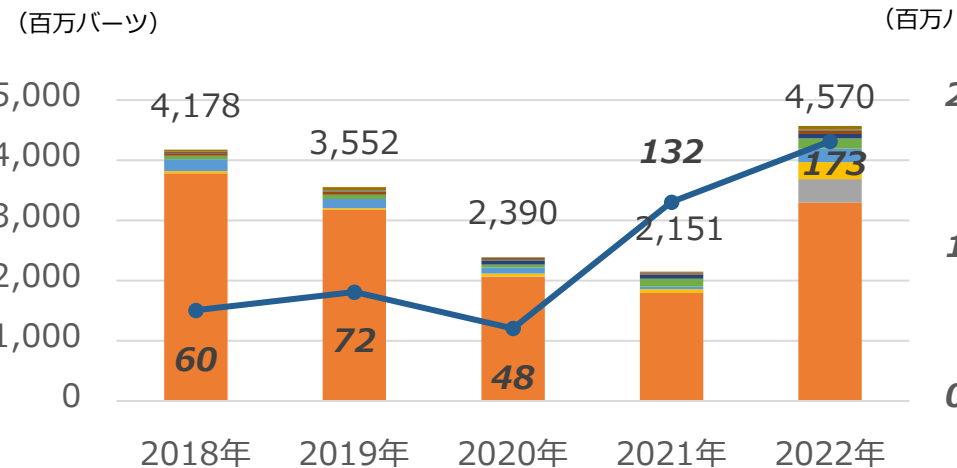
※3 タイビバレッジ <https://www.thaibeve.com/th08/product.aspx?sublv1qID=12>



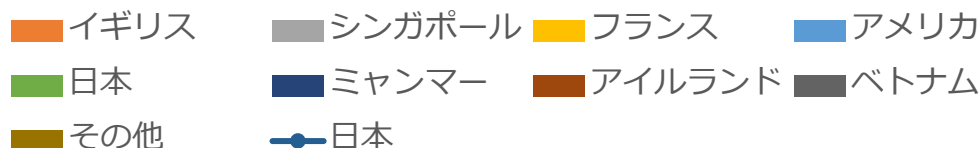
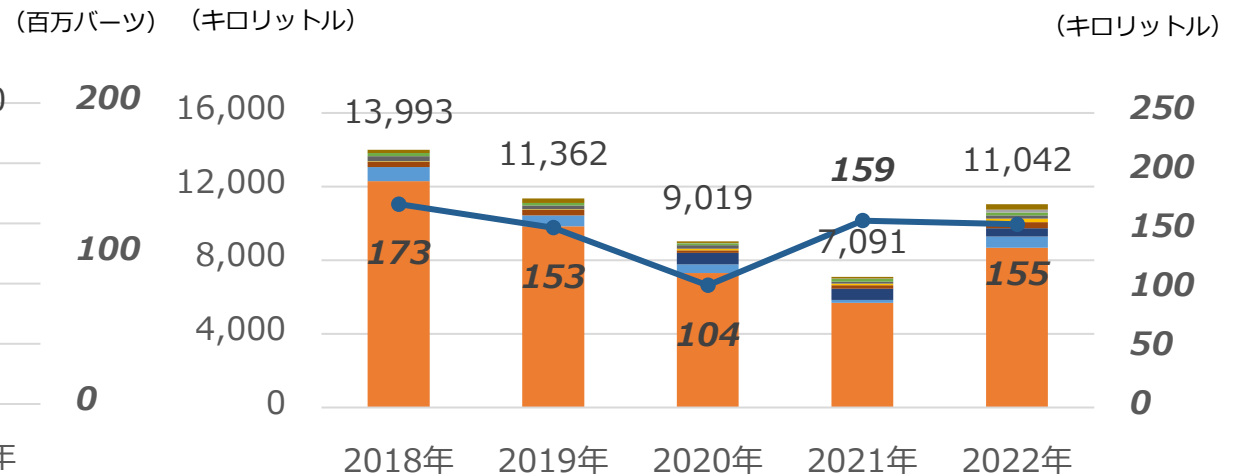
### 3-④-10 ウィスキー –日本や世界各国からタイへの輸入状況-

- ◆ 世界からタイへの輸入額は、2018年から2021年にかけて減少したが、2022年は大きく回復し5年間で最高額を記録。2022年の輸入額のシェアの約72%がイギリス。日本からの輸入額も2020年に落ち込んだが、2022年には最高値を記録し2018年比で約2.9倍。
- ◆ 世界からの輸入量も2018年から2021年にかけて減少。2022年には回復したものの、2018年の約79%。2022年の輸入量のシェアは約77%がイギリス。日本からの輸入量は2018年以降減少傾向だったが、2021年、2022年は回復。

○2018～2022年の世界および日本からタイへの  
ウィスキーの輸入額（CIF価格）の推移※1、2



○2018～2022年の世界および日本からタイへの  
ウィスキーの輸入量の推移※1、2



※1 タイ税関 <https://www.customs.go.th/>

※2 ウィスキーのHSコードは220830

### 3-④-11 ウィスキー –ヒアリング概要（日本産の輸入が伸びている理由等） -

日系およびタイ系輸入事業者からのヒアリング概要（2023年3月実施）

- ◆ **日本産は低～中価格帯が伸びている。** それより高い価格帯も、低～中価格帯ほどではないが伸びている。（A社）
- ◆ 日本産が人気である理由としては、他国産は匂いが強く苦手という消費者もいる一方で、**日本産はタイ人にとって飲みやすい。** また、ウィスキーで漬けた梅酒も人気。（A社）
- ◆ バンコクではレストランのほかバーにも卸しており、地方ではホテル向けに卸している。**バンコク以外の地方で伸びている。**（A社）
- ◆ ウィスキーはソーダ割りでの飲み方が人気。（A社）
- ◆ **日本産の輸入は、今後も伸びていくのではないか。**（A社）
- ◆ 好調という実感はなく、以前と変わらない、もしくは**コロナ禍により下がったところからの回復途上**である。（B社）

## ⑤ 牛乳について

---

### 3-⑤-1 牛乳 -タイにおける生産・消費の概況-

- ◆ タイでは、生乳は2022年現在で年間122万トン生産され、ほぼ同数の122万トンが国内消費されている。 ※1
- ◆ タイは、カンボジアやフィリピン、シンガポールなどの**東南アジアを中心に牛乳や乳製品を輸出**。 2022年の牛乳・乳製品全体での輸出額は約148億バーツ、輸出量は約33万トン。 ※2
- ◆ 生乳については、**タイでは多様な製品が出回っており**、いちごフレーバーやチョコレートフレーバーが販売されるほか、ラクトースフリーの牛乳も販売されている。また、ロングライフ牛乳も販売されている。
- ◆ 日本からは**ロングライフ牛乳が輸入**され、バンコクのスーパーマーケットで販売されている。 1リットル製品で、タイ産がおおよそ50バーツであるのに対し、日本産はおおよそ150~200バーツ。

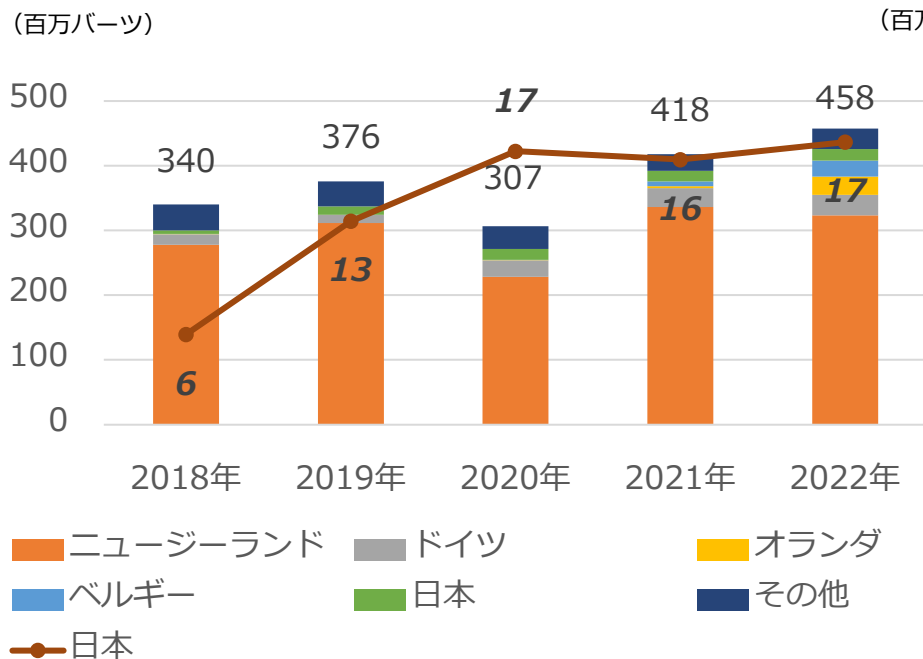
※1 The office of industrial economics : <https://indexes.oie.go.th/industrialStatistics1.aspx>

※2 農業協同組合省農業経済局 <https://www.oae.go.th/assets/portals/1/files/journal/2566/commodity2565.pdf>

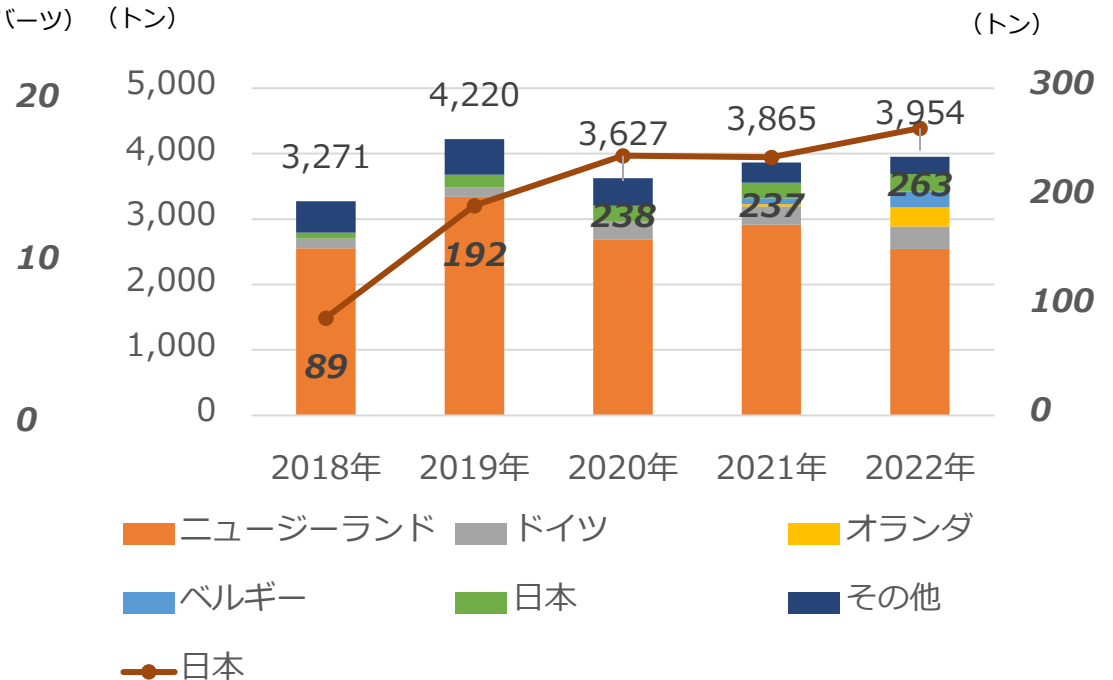
### 3-⑤-2 牛乳 -日本や世界各国からタイへの輸入状況-

- ◆ 世界からタイへの輸入額は2020年に落ち込んだものの、年々増加傾向にあり、2022年は過去5年間で最高額を記録。輸入額の国別シェアは、ニュージーランドが圧倒的な1位。日本からの輸入額は年々増加しており、2022年は2018年比で約3.1倍に増加。
- ◆ 輸入量は金額とは異なり、増加傾向は見られない。輸入量の国別シェアも、ニュージーランドが圧倒的な1位。日本からの輸入量は年々増加しており、2022年は2018年比で約2.9倍に増加。世界からの輸入量は年間4,000トン前後で推移しているが、タイで年間122万トンが生産されていることを踏まえると、国内消費のうち輸入品が占める割合はごく僅か。

○2018～2022年の世界および日本からタイへのミルク及びクリーム※の輸入額（CIF価格）の推移※1、2



○2018～2022年の世界および日本からタイへのミルク及びクリーム※の輸入量の推移※1、2



※1 タイ税関 <https://www.customs.go.th/>

※2 ミルク及びクリーム（濃縮若しくは乾燥をし又は砂糖その他の甘味料を加えたものを除く。）のことであり、HSコードは0401

### 3-⑤-3 牛乳 -ヒアリング概要（日本産の輸入が伸びている理由等） -

日系とタイ系輸入業者からのヒアリング概要（2023年3月実施）

- ◆ **タイ人の牛乳・乳製品の消費量全体が伸びている**実感がある。
- ◆ 日本産の牛乳・乳製品の**メインの消費者は日本人**であると思われる。
- ◆ 日本産のロングライフ牛乳が、**日系の小売店を対象にここ数年売り上げが伸びている**。これは、日本産の生乳以外の乳製品でも同様のことがいえる。
- ◆ 日本産の強みとしては、日本人に受けが良いという点があげられるのではないかと。
- ◆ 一方で、乳製品全般にもいえることだが、諸外国の輸入品やタイ国内産と品質等の面で差別化が難しいとも感じている。
- ◆ 日本産の牛乳の最大消費地はバンコク都であるが、日本人居住者が多いチョンブリ県、チェンマイ県などの**地方でも多くはないが消費**されている。

## ⑥ 緑茶について

---

### 3-⑥-1 緑茶 -タイにおける生産・消費の概況-

- ◆ タイでの本格的な茶の栽培は、1936年にタイ北部チェンマイ県で開始され※1、**現代でもタイ北部は主要な生産地**。タイ農業協同組合省の統計では、タイ全土で年間10万トン进行栽培されており、そのうち約9割がアッサム茶、残りが中国茶である。※2
- ◆ タイ国内では年間1人あたり0.9キログラム消費されており、※3 タイ全国民が飲用したと仮定すると総消費量は約6万トンと推計。発酵した茶葉を使用したタイティーでの消費も。
- ◆ **日本式の緑茶の生産も**行われてており、北部チェンライ県で日系企業がタイ企業と協力して日本式の栽培方法に成功した事例あり。公益財団法人世界緑茶協会が行う世界緑茶コンテストで、2022年にタイ北部のチェンライ県産の緑茶が最高金賞を受賞。
- ◆ タイでは砂糖入り緑茶飲料や様々なフレーバーのお茶飲料が中心だが、数年前より無糖のお茶が販売され始めた。タイのカフェ等での砂糖の少ない飲料の注文数が2020年からの1年間で35.5%増加※4するなど、**タイ国民の間で飲料からの砂糖摂取量を減らす意識の高まり**が背景にあると推察。近年でも、健康志向の高まりや政府の砂糖税増税に対応した、**低糖、無糖の新製品が発売**されている。
- ◆ タイ産の緑茶飲料製品の中には、**日本産茶葉の使用を前面に押し出した製品**も。
- ◆ 近年、**抹茶フレーバーが人気**であり、**カフェやケーキ屋などで抹茶を前面に出した商品**も。ひと昔前は緑茶と一括りにされていたが、徐々に認知度が上がり、緑茶と区別して**抹茶として認識**されている。

※1 メーファールアン大学 お茶の歴史 (タイ語) <https://teacoffee.mfu.ac.th/tc-tea-coffeeknowledge/tc-tea/tc-teahistory.html>

※2 農業協同組合省農業経済局 <https://www.oae.go.th/assets/portals/1/files/journal/2566/commodity2565.pdf>

※3 Khaosod Online

[https://www.khaosod.co.th/economics/news\\_4989568#:~:text=%E0%B8%99%E0%B8%B8%E0%B8%8A%20%E0%B8%A1%E0%B8%B9%E0%B8%A5%E0%B8%A1%E0%B8%B2%E0%B8%99%E0%B8%B1%E0%B8%AA-%E2%80%9C%E0%B8%8A%E0%B8%B2%E2%80%9D%20%E0%B9%80%E0%B8%9B%E0%B9%87%E0%B8%99%E0%B9%80%E0%B8%84%E0%B8%A3%E0%B8%B7%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%87%E0%B8%94%E0%B8%B7%E0%B9%88%E0%B8%A1%E0%B8%97%E0%B8%B5%E0%B9%88%E0%B9%84%E0%B8%94%E0%B9%89%E0%B8%A3%E0%B8%B1%E0%B8%9A%E0%B8%84%E0%B8%A7%E0%B8%B2%E0%B8%A1%E0%B8%99%E0%B8%B4%E0%B8%A2%E0%B8%A1%E0%B8%B2%E0%B8%81,%E0%B8%95%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%84%E0%B8%99%E0%B8%95%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%9B%E0%B8%B5%E0%B9%80%E0%B8%97%E0%B9%88%E0%B8%B2%E0%B8%99%E0%B8%B1%E0%B9%89%E0%B8%99](https://www.khaosod.co.th/economics/news_4989568#:~:text=%E0%B8%99%E0%B8%B8%E0%B8%8A%20%E0%B8%A1%E0%B8%B9%E0%B8%A5%E0%B8%A1%E0%B8%B2%E0%B8%99%E0%B8%B1%E0%B8%AA-%E2%80%9C%E0%B8%8A%E0%B8%B2%E2%80%9D%20%E0%B9%80%E0%B8%9B%E0%B9%87%E0%B8%99%E0%B9%80%E0%B8%84%E0%B8%A3%E0%B8%B7%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%87%E0%B8%94%E0%B8%B7%E0%B9%88%E0%B8%A1%E0%B8%97%E0%B8%B5%E0%B9%88%E0%B9%84%E0%B8%94%E0%B9%89%E0%B8%A3%E0%B8%B1%E0%B8%9A%E0%B8%84%E0%B8%A7%E0%B8%B2%E0%B8%A1%E0%B8%99%E0%B8%B4%E0%B8%A2%E0%B8%A1%E0%B8%B2%E0%B8%81,%E0%B8%95%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%84%E0%B8%99%E0%B8%95%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%9B%E0%B8%B5%E0%B9%80%E0%B8%97%E0%B9%88%E0%B8%B2%E0%B8%99%E0%B8%B1%E0%B9%89%E0%B8%99)

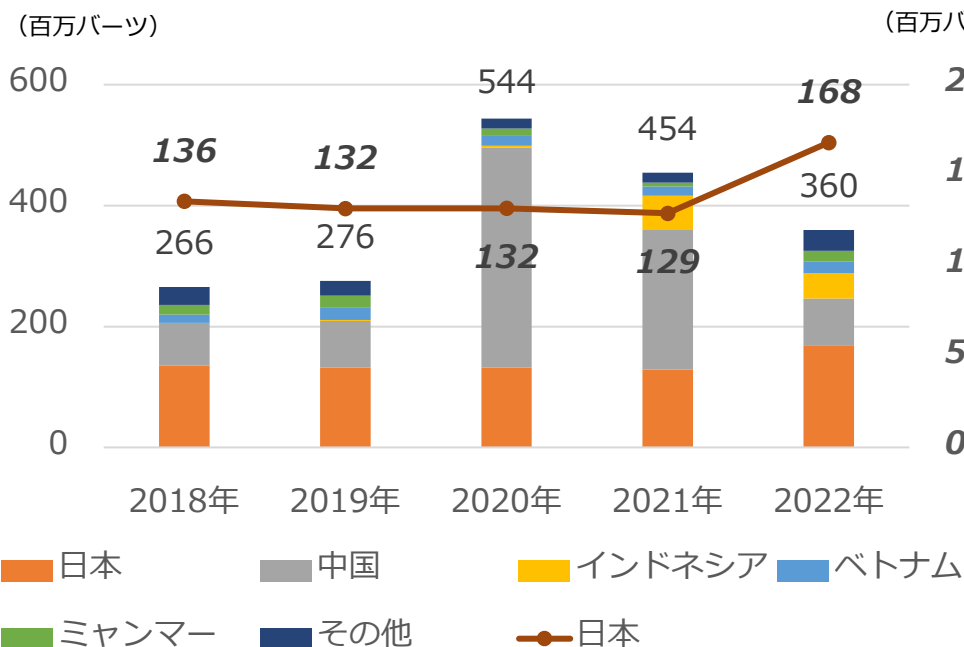
※4 The coverage保健省 『砂糖削減』の結果が出る 飲料『甘さ控えめ』が流行し、国民の注文が35%増加 (タイ語) <https://www.thecoverage.info/news/content/1309>



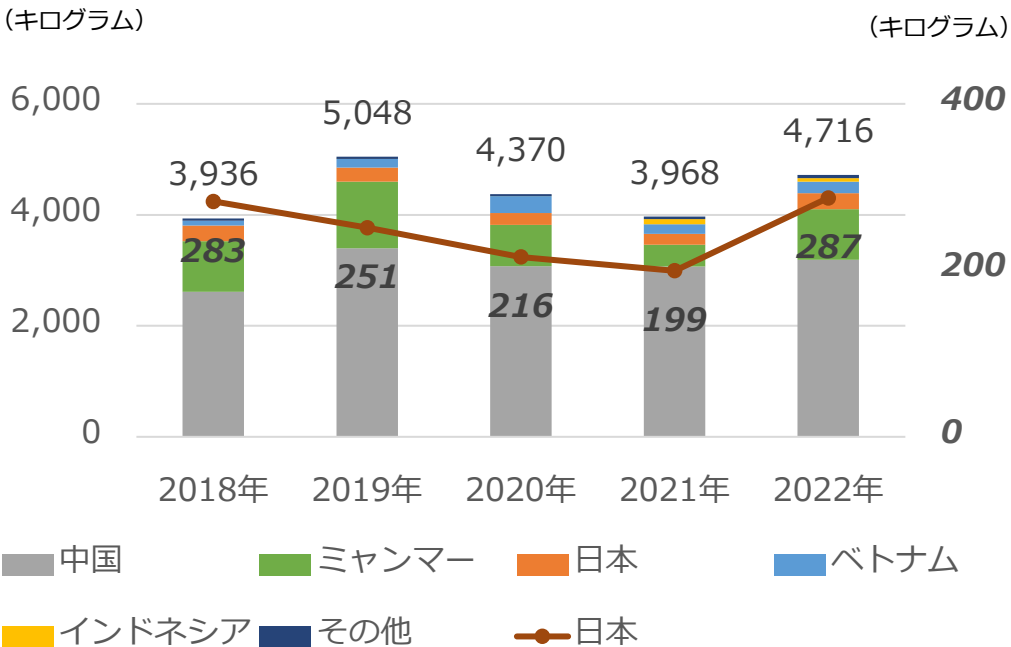
### 3-⑥-2 緑茶-日本や世界各国からタイへの輸入状況-

- ◆ 世界からのタイへの輸入額は2020年に中国産増が要因となって大幅に増加したが、2021年、2022年と減少。2022年のシェアは日本が第1位であり、中国が第2位。日本からの輸入額は2021年までほぼ横ばいであったが、2022年には増加し、過去5年で最高額を記録。
- ◆ 世界からの輸入量は、2019年をピークに、2020年2021年と金額が低下、2022年には回復。シェアの第1位は中国で半分以上をしめ、2位はミャンマー。日本からの輸入量は、2018年から2021年までは数量を落とし、2021年にはここ5年で最低量を記録したが、2022年には2018年水準まで回復。

○2018～2022年の世界および日本からタイへの緑茶の輸入額（CIF価格）の推移※1、2



○2018～2022年の世界および日本からタイへの緑茶の輸入量の推移※1、2



※1 タイ税関 <https://www.customs.go.th/>

※2 緑茶のHSコードは090210、090220

### 3-⑥-3 緑茶-ヒアリング概要（日本産の輸入が伸びている理由等） -

輸入事業者社からのヒアリング概要（2023年3月実施）

- ◆ 緑茶の売り上げは、近年右肩上がりに成長を続けている。また、抹茶やほうじ茶についても同様に好調。
- ◆ 緑茶が好調であることの原因については、個人消費の増加が要因ではないか。個人消費は、ボトル茶など加工済み緑茶製品が好まれている。
- ◆ 近年、Eコマースの発展とともに全国で気軽に茶葉や急須、ティーパックを購入できるようになり、個人で茶を淹れる環境を整えやすくなったことも一因と思われる。
- ◆ 加工原料用の需要が特に旺盛であり、個人消費者を対象とした小売向けにも増して加工工場向けの出荷が好調。抹茶フレーバーなどをSNS上でインフルエンサーが紹介するといった動きが社会で継続しており、お茶ブームの状態が続いている。
- ◆ 日本産の強みは、タイ人の間では日本が緑茶の元祖という認識があり市場で売りやすい点、日本が優良な緑茶産出国であると認識されている点。
- ◆ 日本産はまだまだ現場からの需要を感じているが、関税割当枠内※での輸入でない限り価格面で難しくなり、関税割当がある以上一定程度で輸入量は頭打ちになると予想。

※ 茶、米、乳製品等は一定の輸入数量に限って、低税率の関税率が適用されることとなっており、割当枠を取得することができれば、低税率の関税率での輸入が可能。茶の場合は、通常の輸入関税率は90%、WTO枠内625トンには30%の税率。WTO枠内ではJTEPA等の活用によりさらに低税率となる可能性。

- ◆ 【免責条項】 本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

執筆：農林水産物・食品 輸出支援プラットフォーム タイ

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）バンコク事務所

TEL：66-2-253-6441

Email：[ThaiPF\\_Japanfood@jetro.go.jp](mailto:ThaiPF_Japanfood@jetro.go.jp)

HP：<https://www.jetro.go.jp/agriportal/platform/th.html>

- 農林水産省「令和3年度輸出先国・地域における輸出支援体制強化委託事業」「令和4年度輸出重点品目についての輸出先国・地域におけるJETROの海外事務所を活用した商流構築や販売支援の強化委託事業」（受託者：JETRO）